

令和6年度第2回あけぼの山周辺地域懇談会会議録

1 開催日時

令和6年12月17日（火）午後2時から4時半まで

2 開催場所

あけぼの山農業公園資料館2階

3 出席者（敬称略）

渡辺 均(座長), 榎野 良明(副座長), 小柳 功, 齋藤 和夫, 高松 秀実, 成島 孝, 山口 まり, 涌井 正幸, 以下, 指定管理者（株式会社日比谷花壇）藤部 拓己, 鈴木 和久, 本宮 由紀子

4 事務局

奥田副市長, 坂齊都市部長, 浅野公園緑地課長, 同課永野副参事, 高橋主幹, 加藤副主幹, 中村農政課長他

5 議題

- (1) 前回の振り返り
- (2) 公園の将来像
- (3) 参加者による意見交換

6 傍聴

1名

7 主な内容

○ 加藤副主幹（柏市都市部公園緑地課）

資料説明

○ 渡辺座長

今日の議題としていただきたい御意見の視点として、最初に前回の振り返りについて、不足の点、追加の意見があればいただきたいと思います。また、先ほど説明のあった柏市の市制70周年の記念事業について、感想等があればお願いします。

○ 成島委員

私は、ここで生まれてここで育ったが、桜山をもう少し綺麗にしていきたいと、モミジや彼岸花を植えたこともあります。だからこの職員の皆さんには、異動する時に記念に、小さい苗木を置いて言ったらどうかと言っています。お金をかけず、やれることもあるのではないかと。

○ 齋藤委員

特に意見や追加はないですが、一つだけ懸念があります。今後、この会議に基づいた整備がなされると想定していますが、一番面倒なことは維持管理なんですね。選んだ業者が維持管理を怠ったら、せっかくいい施設が、十分に活用されなかったり、方向性を見失ったりする。

指定管理者は、市の要求に対して色々な提案をするわけですが、価格を上回るプラスアルファのサービスが提供されるから、その業者を選定している。ですから、維持管理も含めサービスが十分果たされているかどうかということは、管理監督する市の方に責任があるんですね。

100の業務を発注して、結果的に200のサービスが返ってくればこんないいことはないんですけども、最低限の発注した内容ですら、管理監督者が、検査をしっかりとやらなければ、適正な施設の維持管理ができなくなる恐れがあるっていう部分があるので、その点を心配しています。

○ 高松委員

2点あります。一つは、子供の時にこの公園で過ごして、大人になったら自分の子供を公園に連れてきてここで過ごす。それが続けば、ずっと使われる公園になるのではないのでしょうか。

二つ目は、施設が点在してる点で、海外だと、イケアのように、初めからルートが決まって、こう行かなければ出ることができない公園があったりするんですね。そのような公園をつくれば、まとまりのある公園になるのではと思っています。

あと前回の皆さんの意見を見て感じたのが、やはり皆さん様々な立場から多種多様な考えをお持ちでいらっしゃるの、なかなかこれまとめるのは難しいんだろうなというのは感じました。

○ 山口委員

今、車椅子とかベビーカーを押して公園全体を見るということは困難だと思うので、ぜひバリアフリーに即した回遊路ができたかなと思いますし、天候が悪いとか、すごい北風が強い日ですとか、ものすごい暑いなど、ちょっと逃げる場所っていうのかな、お弁当を持ってきて、そこに行ったら、天候に関係なく食べられるよっていうような、場所があったらいいかなと思います。

しょうなんの道の駅ですと、柏産の何かを使ったソフトクリームがありますが、ぜひこの公園でも柏産の農産物を使ったものを導入できたら面白いんじゃないかなと思います。

○ 小柳委員

この公園の最大の魅力はやはりチューリップです。富勢東小の子供たちの協力のおかげで、今年も無事に植え終わり、3月の中旬頃には咲いてくると思います。でも雑草管理が非常に難しいのですが、我々は花をいかに綺麗に咲かせるかということが一番を考えて毎年作業しています。

○ 涌井委員

この間の好き勝手言った意見を非常に簡潔にまとめてくださってありがとうございます。

不足の点はないですが、前回もお話ししたふるさと協議会として、10月6日に公園内の梅林で八朔相撲を開催することができました。それと併せて、穴窯ですが、11月前半に陶芸の体験をし、窯入れを今月の頭に行ったかと思います。そういった実際に行っていることを、最新情報として盛り込んでいただけたら嬉しいです。

○ 柳野副座長

涌井委員からもありましたが、前回の意見をよくまとめていただいたというのが感想です。

御説明にもありましたが、前回の平成30年3月にまとめられたものを拝見しました。地域の人たちの将来像、こうあったら良いのではないかという考え方は、今議論しているものと非常に合っていると思います。あの考え方を踏襲していくのが基本路線かなと感じました。

それから、懇談会ということですので、意見を出し合うことは大事ですが、なるべく早く実行に移すことが大切だと思います。前回の時も、将来像は出ているのですが、具体のアクションが進まなかったの、これを実行に移していくことが重要だと感じました。

○ 日比谷花壇（指定管理者）

70周年記念事業は、新しい集客にも繋がり、とてもいい形で終わることができました。一方で、コスモスの時期でしたので、花の季節以外だと効果がでるか、検討の余地があると思います。

ランタンナイトは夜間に開催しましたが、照明がないなど、ハード面の対応が必要でした。持続的にぎわいを生み出していく課題でもありますので、検証して、進めたいと思います。また地域の皆様とともに進めていくことも重要だと考えています。

○ 渡辺座長

ありがとうございます。振り返りについて、今後、施設整備しても維持管理をきちんとしなければならぬということが指摘されました。その中で、植物の管理をきちんと行い、常に皆様にお見せできるようなクオリティが重要だということが確認されました。また、指定管理者が提供するサービスの質をチェックすることが求められると指摘されました。

ふるさと協議会ではイベントを開催しており、これらの活動をもっと広めるためには、公園との連携や情報発信が必要だという意見も出ました。実行に移すことが大事であり、今回の懇談会の内容を早期に実行に移す必要があるという意見もありました。

これらの意見を反映して、進めていくべきだと思います。

○ 高橋主幹（柏市都市部公園緑地課）

杉浦氏からコメントをもらっていますので御紹介いたします。

70周年記念事業に関しては、この成果を活かして、通年で定期的にやるイベントなのか、あるいは単発なのか、今後検討していかなければならないのではないかと。というお話がありました。

振り返りに関する意見は3つあります。

一つ目は、公園の名称です。公園の名称は非常に重要であり、公園のイメージをつくる。そのため、まずは名称を統一して、そこに合わせたコンセプトをつくって進めたほうが良いのではないかと。例えば、山や農業といった言葉を使わず、あけぼのの杜公園といった新たなイメージのネーミングを付けたらどうか。

二つめは、サービスのうち、農業の部分です。農業法人が入って、農地を賃借し、しっかりと作物を作って、生産してもらうのがよいのではないかと。それを公園で販売する、飲食店で使用する形になることが、公園と農業の連携になる。また、若い人もその農業法人で仕事としての農業を体験してもらうことが後継者育成になる。

三つめは、公園マネジメントです。土地がしっかり整理されてなければ、何もできない。少なくともメインの場所はしっかり柏市が所有して、柏市の観光資源となるように整備して、魅力を高めていくべきではないかと。

以上になります。

○ 渡辺座長

振り返りについて他に追加で御意見はありますか？それでは、次に進みます。

2点目の議題について、ページ24から28に記載されたビジョンに関してご意見をいただきたいと思えます。まずビジョン1について、何か御意見はございますか？

○ 椰野副座長

このビジョンに関して特におかしい点はないと思えますが、一点気になる点があります。前回も少し触れましたが、「観光資源の活用」として「歴史資源」が掲げられていない点です。例えば、弁天様など地域の持つ歴史資源が少し隠れてしまっているように感じました。ビジョンの中で、これらの地域の歴史資源がもう少し強調されても良いのではないかとと思えます。

○ 涌井委員

富勢小学校では地域発見という事業で、子供達が地域の歴史を学ぶ機会があります。子供達が調べたい高野台の歴史に関して、八朔相撲が始まったきっかけの話がありました。

八朔相撲は、徳川吉宗の時代、江戸時代に五穀豊穰を願う神事として始まって、地域行事として親しまれてきたようです。また戦時中は、この地域に陸軍の高射砲連隊が置かれていたんですね。その後、この軍事施設が無くなって、住民が増えていったんですが、八朔相撲は、そういった若い方のコミュニケーションの場になっていたようです。

一時、中断していたようですが、その後、平成7年に小学生が参加する行事として、自治会や学校の先生の支援により復活して、かなり盛り上がっていたようです。

どこまで歴史というか分かりませんが、そういうところを学ぶってということもあるかと思います。

○ 高松委員

私も、子供時代に家の前の堤防で遊んでいた思い出があります。そのような場所を、今の子供たちにも提供できることが大切だと感じます。大人になった後も思い出として残り、その後も自分の子供を連れて行きたくなるような場所であるべきだと思います。もちろん市外に対するPRも大切だと思うのですが、そもそも地元で住んでいる人達、特に子供達ですよね、子供の時はこのあけぼの山で遊んだよなと思ってもらえる場所になるといいなと思います。

○ 齋藤委員

今、高松委員がおっしゃったように、子供たちの心をここで育て、それを見た親が自分の子供をもう一度この場所に連れてきたいと思えるような施設作りを進めていけば良いのではないかと考えています。施設は分散とか、適正配置といった問題もあると思います。

また、過去にも同様の会議があつて、実行できなかったのであればまだ良いのですが、全く実行されなかったこともあります。こうした過去の事例がいくつも繰り返されてきたことを考えると、今回の会議も正直言って疑念を抱いています。これまでと同じことを繰り返しているのではないかという思いがどこかにあります。

本当に実行する気があるのか、また実現可能なのかという点について、少し懐疑的に思っている部分があります。ぜひとも、今回はスピーディーに実行して、進めていただければと思います。

○ 渡辺座長

実行というところで、何かその実行のプランとか予定とかあるんでしょうか。

○ 高橋主幹（柏市都市部公園緑地課）

実行に関しては、柳野委員、齋藤委員からいただきましたが、非常に重要だと考えております。今後の進め方において、どのように誰が実行していくか、またそのスピード感を持って進めることが大切だと考えています。そのため、何ができるのか、しっかり整理をして、御説明できるようにしていきたいと思っております。

○ 浅野課長（柏市都市部公園緑地課）

何が実行できるのかについて、前回御説明した通りですが、今のあけぼの山公園で一番重要な課題は、渋滞の緩和だと思っております。このため、県道から公園まで、バスが通行できるような新たなアクセス道路の検討を進めているところでございます。

早めに整理して、実行できると思っておりますので、今後の進展に御期待いただきたい。

○ 齋藤委員

今のお話、大切だと思います。前回の会議でアクセスの問題についても話しましたが、今提案されている案については現実味を帯びてきていますので、期待しています。

個人的には、決定には時間がかかるものと思っておりますが、進展に期待しています。

○ 渡辺座長

また、先ほど杉浦委員からあった公園の名前の件は、どうでしょうか。

○ 榑野副座長

名称は、やはりコンセプトと繋がるため、とても大事だと思います。

一つのアイデアとして、全体の方向性が見えた段階で市民に公募してみるのも良いかもしれません。ただ、そのまま募集しても、無責任なので、名前を決め打ちする前に、例えば「花を中心とした公園」といったコンセプトを示し、その上で適切な名前を公募する方法が考えられます。

事例として、北海道の恵庭市の「はなふる」という名前のように、地域に親しまれる名前を公募で決めるのも良いと思います。今は、市民に浸透してきて、花の拠点だねって認識になっています。あけぼの山という名前はやはりつけるべきと思いますが、あけぼの山何とか公園とか、先ほど杉浦委員のあけぼのの杜公園、そういうのもありかと思えます。ここはまさにコンセプトを作るところなので、ある程度明確にした上で名前を公募するというの是一個の考え方かなと思います。

○ 小柳委員

現在、風車の修理をしていますが、将来的に回るようにする予定はあるのでしょうか？

○ 高橋主幹（柏市都市部公園緑地課）

風車は回るようにする予定は今のところありませんが、今回は、外壁が老朽化しており、かなり朽ち果て安全上問題があることから、まず修理を行うことにしております。

○ 浅野課長（柏市都市部公園緑地課）

風車が回らないのはおかしいと思いますので、回るようにするための提案を業者に出してみました。その結果、新たに建設した方が安いかもしれないという見積もりも出ています。まずは外壁の修理を先に行い、その後、風車を回す検討を行う予定です。

○ 小柳委員

風車の近くで水を流していたところがありますが、今後、流すつもりはないでしょうか。

○ 浅野課長（柏市都市部公園緑地課）

風車の近くで水を流していたということの認識がなかったんですが、今後、景観的なものも考慮して、合わせて検討しなければいけないと考えています。

○ 山口委員

風車はなぜここに設置されているのでしょうか？どこの国の風車ですか？

○ 永野副参事（柏市都市部公園緑地課）

風車の設置理由については、正確にはわかりませんが、当時オランダを意識して、チューリップと風車をつくったものと聞いております。ただオランダとの姉妹都市などの関連はありません。

○ 齋藤委員

当時、さくらやチューリップの活動と関連して風車が作られた可能性が高いと思います。チューリップと風車の組み合わせが観光的に良いという考えから設置されたのではないかと思います。

○ 涌井委員

公園ビジョンをどうやって実現していくのか。やはり順番が大切ではないでしょうか。

季節ごとにイベントが展開されていけば、「またチューリップの時期に行きたい」といった流れが自然とできると思います。先ほど、コスモスを活用した例も挙がっていましたが、あけぼの山農業公園のランタンイベントが非常に大盛況だったとお伺いしました。このような人気のあるイベントを、一度きりで終わらせるのではなく継続させるべきだと感じています。

例えば、星空観察などの夜のイベントを取り入れることで、20代や若い世代の来園者も増えるのではないのでしょうか。また、イベントが定期的に開催されている印象を与えることも重要です。継続的な取り組みを期待しております。

○ 日比谷花壇（指定管理者）

指定管理業務として、柏市様と連携のもと、大型イベントによる賑わいの創出に取り組んでいます。一方で、地域のイメージや特色に繋がるような取り組みを進める必要があると考えています。そのため、地域の活動や取り組みを積極的に活用し、公園ごとの特性に落とし込む作業が非常に重要になると思います。特に、SNSを活用した情報発信が鍵になるのではないのでしょうか。

○ 渡辺座長

ありがとうございました。ランタンイベント事業はどのような位置付けだったのでしょうか？

○ 浅野課長（柏市都市部公園緑地課）

市制 70 周年記念事業のメインイベントとして市が主催者として指定管理事業とは別に実施しております。これを契機に様々な取り組みを展開してければと思っています。

○ 坂齊部長（柏市都市部）

70周年記念事業は、資料5ページの内容も含め、様々な事業について議論を重ねて実施したところ。1か月間やりきろうということで、毎週毎週なんかしらのイベントを開催してきました。先週も日比谷さんが面白いイベントを開催されていますが、毎週、なんかしらのイベントをやっ
ていらっしゃると思いますので、日比谷さんのほうから御紹介いただければと思います。

○ 日比谷花壇（指定管理者）

僭越ながら、先週「世界のごはん&おやつフェスティバル」を開催し、多くの方に楽しんでいただきました。月に1回程度、物産フェアや親子向けのワークショップなど、大型イベントを開催することで、地域住民に喜んでいただけるイベントを目指しています。

○ 渡辺座長

そのように様々なイベントを開催する中で、来年以降も継続して行う計画はありますか？

○ 坂齊部長（柏市都市部）

今年の取り組みを踏まえながら、来年はさらに面白い企画を検討したいと考えています。同じイベントを繰り返すだけでなく、新しい仕掛けを考えることが重要だと思います。

全く同じことをやってもお客さんが来るかどうかというのもありますので、今年の内容を踏まえながら、来年は更に面白い企画を仕掛けられるといいなと思っています。

○ 渡辺座長

2番目のビジョンですが、ソフト事業とか魅力ある施設配置や施設の統廃合とか、いろいろありますけれども、何かそのあたりで御意見等がございますでしょうか。

○ 高松委員

イベントって、ちょっと疑問に思うところがあって、イベントをやると、人来るけれども、イベントない時って人が来ないじゃないですか。やっぱり、理想は毎週、たくさんの人に来て欲しくて、もっと言えば週末だけじゃなくて、平日も来てくれる場所になる方がいいと思うんですよ。

ですから、まずその状態が基本になって、プラスイベントだと思います。そうすると、極端に言えば365日、人が来てくれるような公園っていうとやはり、私は植物だと思っています。

今もちろんチューリップとか、コスモスとかが綺麗な時期だと来てくれるけれども、もっと通年通して、例えばこの場所ではサクラ、この場所ではアジサイ、秋はモミジとか、そういうのが公園の中であって、1年間の植物を楽しめるとかね。それがベースだと思うんですね。

ですから理想としては、一年中植物が楽しめる場所にすることだと思います。もちろんこれ、メンテナンスや作業といった面で非常に手間がかかるので難しい面もあるんですが。

○ 齋藤委員

私も全く同感です。イベントの有無に関わらず、魅力的な場所にしていく必要があると思います。

ただし、問題は多くの集客を生んでいるチューリップの花畑は「公園協力区域」ということです。この区域で、市が新たに何かをしようとしても、営農組合の方々が拒否したら何もできませんから、結果、公園としての機能や意義が成立しなくなる可能性があります。これでは困るわけです。

市の管理区域だけで新たな魅力を生み出すのは、正直なところ難しい、いや、ほぼ不可能だと思います。だからこそ、農地をどう活用するか、方向転換を図っていくべきではないでしょうか。今後の農地の在り方をきちんと考えないと、公園の発展的な整備は成り立たないと感じます。

また、子供連れの家族が楽しめる収穫体験プログラムを検討してはどうでしょうか。私が直接聞く来園者の声は、「花を見に来ている、それ以外に魅力がない」というものや、「子供と一緒に収穫体験をしたい」との意見が圧倒的に多く、家族連れに対して、農地を活用してどのようにことができるか、しっかり考えていくべきです。そうした方向性が、公園のさらなる魅力づくりに繋がると思います。

○ 渡辺座長

ありがとうございました。公園のマネジメントに関わる部分について御意見いただいたかと思いますが、齋藤委員がおっしゃった点について、御意見や御見解はございますか。

○ 中村課長（柏市経済産業部農政課）

農政課の中村と申します。よろしくお願いたします。農業公園は令和2年度まで農政課が担っておりましたが、公園部局に移管され、現状の形になっています。

この公園は農地に囲まれた環境にあります。そのため、農業との連携は極めて重要であり、地域に根ざした取り組みが必要です。例えば、ブルーベリー農園など、公園周辺では農業体験を提供する取り組みが行われていますが、これらの農業と連携を図ることは可能かと思えます。

また、課題としての農業の後継者不足の問題への対応も今後の重要なポイントになると思えます。その中で、公園が地域にどのように貢献できるか、また整備された公園がどのように地域と連携できるかを検討していく必要があると考えています。

○ 成島委員

ブルーベリーといった観光農園は、地域の方々と一緒に前向きに農業に取り組んできた結果だと思えます。公園の整備はもちろん必要ですが、地域の農業者と連携することも重要です。また、公園整備が、今後の後継者不足の問題にどう影響するののかも気になります。

○ 渡辺座長

ありがとうございます。地域の農業者が農業体験の一部を担うという形になるのでしょうか？そのような方向性でよいのでしょうか？

○ 中村農政課長

はい、その通りです。ただし、地域の状況や課題に応じて柔軟に対応していく必要があると考えています。

○ 成島委員

私はこの公園の設立当初から関わっています。その際、地域の農業がどのように協力していけるかを模索してきました。今ではお客様も増えて、土日だと、1日200人ぐらいですが、当初は課題も多かったです。それでも少しずつお客様が来てくださるようになり、子供連れの家族が誕生日などの記念日に訪れる姿を見ると、やってきてよかったですと感じます。

こうした活動は非常に大きな労力が必要で、みかんは収穫まで10年かかったけど、10年も経つとみんな80歳になってしまう。私自身も年齢が上がってきましたので、今後の担い手がどうなるか心配ですが、是非、公園と農業の連携を進めていただきたいと思います。

○ 渡辺座長

そうですね、需要はあるけど、供給側が応えられるかが問題です。観光農園に家族連れが訪れているという話ですが、多くの人が集まる観光農園が各地に結構あります。大学にもいちご狩りに訪れる家族連れがいますが、これを個人の農家さんに任せるとなると、設備投資や運営コストが課題になります。そのため、今後、補助金や支援の施策をぜひ御検討いただきたいです。

ありがとうございます。他にも参考となる事例があれば、ぜひお伺いします。

○ 椰野副座長

そうですね、まず利用者の動向、つまりどのような人たちがこの公園を利用しているのか、また過去にどのような利用形態があったのかを把握することが大事です。昔はフィールドアスレチックのような施設があったという話も聞いていますが、公園全体のコンセプトを考える中で、何が必要かを議論していくべきだと思います。

他市の面白い取り組みとして、イベントで社会実験的に民間を巻き込む例があります。例えば、コーヒーショップを出店したい事業者を公募し、イベント期間中に試験的に営業してもらうものです。その成功例を基に「Park-PFI 制度」に移行し、正式に出店した例もあります。このようにイベントをきっかけに、地域が求める施設を探る方法も参考になるのではないのでしょうか。

○ 渡辺座長

では、続きまして、議題3の「マネジメント」に移ります。先ほども話題にでた公園区域の明確化や官民連携や駐車場についても、具体的に御意見があればお聞かせください。

○ 椰野副座長

公園区域の明確化についてですが、ここでいう区域の明確化といったときに、都市公園の区域になるというイメージでなくてもいいのかと思います。

それは将来的には都市計画公園というものもあるのですが、例えばフラワーパークでもなんでもいいのですが、一つのコンセプトでまとまったエリアを公園区域として宣言して設置するようなゆるいゾーニングをするというやり方もありで、現実的かなと思います。もちろん、その中には当然農用地なども含まれても構わないという形です。後はエリア内の周遊路ですね、これができれば、みなさん1時間とか散歩しますし、健康にも繋がるのではないのでしょうか。

官民連携や持続可能な公園運営については、必ずしも民間事業者だけに頼るのではなく、市民も含めた「公民連携」という視点が重要ではないかと思います。その具体例として、公園協議会という制度があります。ローカルルールを決めて公園の運営をしましょうという制度です。まさに、本日お集まりになった皆さんがまさにそのメンバーで、市役所、地域関係者、指定管理者などが一体となって運営方針を決めていくことで、持続可能な運営が実現するのではないかと思います。

○ 渡辺座長

ありがとうございます。専門のところも本当にありがたい部分のお話かなと思います。その他に先ほども道路の話が多少あったと思うんですけども、駐車場も含めて何かあるのでしょうか。

○ 涌井委員

柳野委員のお話のとおり、エリアを改善して、それに合わせて、道路や駐車場等の整備を行っていくということ、これは是非実現していただきたいと思います。

また農産物を販売する道の駅のような施設があれば、売り上げ日本一の直売所がある糸島のように日々の買い物で集客ができ、持続可能な公園運営が実現できるのではと思います。利用者としてはですね、使い勝手が良くて、楽しければ良いということが、一番大切ではないでしょうか。

○ 渡辺座長

ありがとうございます。利用者側に立ったものの考え方ですけど、農産物直売所ってお話があったんですけども、こういうものを例えばつくったとして、農産物が集まるのでしょうか。

○ 成島委員

農業後継者がいなくて、集まらないかもしれません。この町会で、後継ぎがいる農家はたった 1 件ですよ。富勢地域だって、後継ぎは 2, 3 件くらいそういう状態から、やはり実際、子供の世代では厳しい状況が想定されるのではないのでしょうか。

○ 齋藤委員

成島さんが言う通りで、うちもそうです。平成 30 年の議論から更に年数経ってますから、余計に後継者はいなくなっています。

実は道の駅好きでよく行くんですが、道の駅は農産物直売所がメインにあって、物があれば必ず売れるっていう面白い現象があります。この地域の農家は、スーパーに販売手数料 25%払って出荷していますが、本当は地元に出したいんです。卸売市場は青果物 8%しか取られませんから、本来卸売市場に出荷するのが一番いいんですけども、なかなかまとまった量が確保できない。

そういう人たちは、涌井さんが言った、道の駅なんかに出荷したいって言ってるんですよ。でも今のトマトハウスは、あまりにも外れた場所にあって、利用者は行きづらいのが問題です。

○ 成島委員

そうですね。そう思います。

個々の能力で、大規模に生産して直売している人もいます。でも使う農業機械を揃えるのも非常にお金がかかる状態で、一人でそれを行っていくのは、無理ですね。現状では、そのようなことを担える人は少ないのではないのでしょうか。

○ 渡辺座長

今の農業は、そういう状況なんですよね。収益を重視し、大規模かつ効率的に行うという形もあれば、一方で、農福連携や障害者雇用といった、小規模で多品目を扱うスタイルもあります。

これは農業の話ですが、たとえば齋藤さんや成島さんの土地をお借りして、地域の方たちが農業を始めるといった可能性もあります。こうした取り組みを地域全体で支えて、農業振興を考えるとということなら、まだ可能性はあると思います。

ただ、おっしゃるように早く手を打たないと、本当に手遅れになるのではないのでしょうか。また、地域農業に詳しい方が関わって、技術的な指導をしながら取り組みを継続することが、とても大切だと思います。これは、豪華な取り組みではなくても、しっかり実施することが重要です。

○ 成島委員

その土地を持っている人が、自分では農業を続けられない場合もあります。たとえば田んぼを持っていても、「田んぼをもう手放したい」と思うことがありますよね。専門性の問題もあって、「これ以上は無理だ」となると、大きく転換する必要があります。規模の大きな農地で頑張って、少しでも多く生産しなければならないような状況もあるわけです。

○ 渡辺座長

ありがとうございます。

こうした中で、農業と他分野の連携を進めることが重要で、農政課で検討を進めていただきたいですね。農業振興策を考える際には、大規模化が法律の側面でも問われる一方で、人件費の課題もあります。こうした条件を踏まえた振興策を立案することが必要だと考えます。

最後に28ページ全体についてですが、市民の生活実現を目指して「ビジョン1」「ビジョン2」「ビジョン3」といった提案が示されています。この中でお気づきの点や御意見がありますでしょうか、特にないようであれば、このまま進めていく形でよろしいですか？

はい、ありがとうございます。

続けて進めますが、第3回の議題でもありますが、31ページにある具体的なアクションプランについて、まずは事務局から説明をいただき、その後に議論を進める形でお願いします。

○ 高橋主幹（柏市都市部公園緑地課）

内容説明

○ 涌井委員

私は東日本大震災以降、あちこちでボランティアをしており、この災害対応が気になっています。公園や住民の被災考えにくいですが、公園周辺で災害に対して、被災者を受け入れるための公園整備が求められると思います。

公園には広大な平地があり、仮設住宅を建てることを想定した場合、こういったインフラが必要かを考えなければなりません。例えば、仮設のトイレやマンホールトイレなどの整備も必要です。公園はレジャーとしても重要ですが、命を守る場所としての重要性もあるのではないのでしょうか。将来的には公園が災害時の重要な拠点となるような方向も考えられると良いと思います。

○ 小柳委員

公園でのロケについて、昔はよくテレビで見かけましたが、最近はあまり見かけなくなった気がします。また、公園内の飲食サービスについて、ここで食事を提供することが大事だと思いますし、それが公園の魅力を高める一因になるのではないかと思います。

○ 山口委員

先ほども言いましたが、無料の休憩所があればいいと思います。寒い時期に公園に来て、休める場所がないとすぐに帰ってしまうことがあります。また、女性にとって、使いやすい綺麗なトイレは重要です。それと、バリアフリーについても、車椅子やベビーカーでどこでも行けるような施設があるといいですね。

また、飲食に関しても、美味しい店があれば口コミで広がりますし、平日でも主婦層が訪れるようになると思います。入場は無料なので、集客に繋がるのではないのでしょうか。

○ 齋藤委員

ちょっとまとまっていない部分があり、申し訳ないですが、これまで話したことがその通りだということで御理解いただければと思います。

○ 成島委員

借地している土地で十分に利用できていない場所がありますよね。そういった場所を活用していただきたい。

○ 椰野副座長

ほぼ今までの話の繰り返しになりますが、いくつかコメントさせていただきます。

まずイベントは重要だと思います。社会実験的でも構わないので、何かやりたいことを募集するのもいいかもしれません。メロンパンの販売が公園の集客に繋がっている事例もあります。

それから、魅力を高めるため、年間を通じて何らかの花が必ず見られるようなプログラムを作ることが重要だと思います。チューリップやコスモスがメインになるかもしれませんが、それ以外の時期にもアジサイであったり、花しょうぶ、果樹もいいと思います。

最後に、全体のコンセプトとして、周遊ルートを設定するのも良いアイデアだと思います。駐車場からどう回ると楽しいか、おすすめのコースを設定することで、訪れる人々により楽しんでもらえると思います。実際に歩いて回ること健康にも良いですし、地域資源も楽しめます。

○ 高松委員

年間を通して花や植物を楽しめる場所にすることが重要です。例えば、公園側は宿根草を植え、農地側には球根を植えるなど、管理が少し大変でも、長期間楽しめるような工夫が必要です。

ただ、もっと多くの花を楽しんでもらうためには、もっと多くの人手が必要になってきますが、農業の担い手がいない現状では厳しいと思います。また、趣味で活動している人に協力してもらうにしても、本当に必要なタイミングで人手を集めるのは課題です。

○ 日比谷花壇

現在、ヘッドガーデナーというチームを組み、年間を通して花を楽しめるような取り組みを進めています。具体的には育てるところから始まる年間プログラムを作り、子供たちが参加できるような企画を考えています。もちろん、我々だけでは実現できませんので、地域の皆様との協力が必要です。連携をしながら、参加いただけるように魅力を高めたいと思っています。

さらに、毎年チューリップが凄く綺麗ですが、それだけを楽しんで、帰ってしまう方が沢山いらっしゃいますので、公園のイベントを充実させ、両方楽しんで帰って頂きたいと思っています。

最後に、お金もかかることですが、駐車場をある程度集約化し、そこに事務所もあって、御案内もできるとより良くなるかと思えますし、利用者の方々にも喜んでいただけたらと思います。

○ 渡辺座長

さて、皆さんからのお話を伺って、31 ページに記載されているロケの誘致やナチュラルガーデンの整備に関する文言について、これは第1回懇談会でいただいた意見を踏まえた内容で、これだけではないんですよということでもいいんですね？

○ 高橋主幹

そうですね。今回、いろいろな御意見がありました。すぐに実行できるもの、できないものもあります。それらは、日比谷花壇さんともしっかり協議しながら進めていきたいと思っています。次回の懇談会では、どのように進めていくか、さらに具体的な案を提示できればと思います。

○ 渡辺座長

次回に向けて色々な意見交換ができたと思います。御意見があったとおり、花や植物など、周年計画に基づいて、1年を通じて楽しむことができる公園づくりを進めるべきかと思っています。

また子供達が週末とか放課後に、ここで遊ぶ、植物や農業にふれる、そういう場になってはどうかと思います。それはお年寄りでもいいですが、受け皿的な場所になれるのではと思います。

ただ、どう活用するとか、この地域で何が必要かということなど、ハードとソフト、両方を話し合っていけるような懇談会のような話し合う場があって、そこには行政内部も含めて、色々な立場の人が参加しながら、一体になって議論していけるといいなと思いました。

そのため、コンセプトに基づき何をやるのかはこれからだと思いますが、懇談会で多くの意見をいただき、次回に向けてさらに具体的な案を出し合っていければと思います。

○ 椰野副座長

渡辺座長のお話を聞いていて、私たち都市緑化機構では、緑化フェアを実施する際、最近小学校の子供たちにも参加してもらうことが主流になってきています。例えば、種団子を作るといった活動を近隣の児童に行ってもらおうというのも良いのではないかと思います。チューリップなどの花を育てる活動も、さらに広げていく方法もあるかもしれません。

○ 渡辺座長

ありがとうございます。

農政の問題かもしれませんが、新規就農のニーズは非常に高いものの、この地域で受入れて頂けないという現状があります。結果、希望者は茨城県に行ってしまう方が多くいらっしゃいます。

半農半Xという言葉がありますが、農業専従ではなく、半分は他の仕事をすると行った形での雇用のニーズも結構ありますので、補助制度をつくって、この地域でトライアル的にやるとか、この地域を花などの一大生産拠点にして、後継者を育てるといったことも可能性があるとあります。

時間が少し延びましたが、今回はここで終了とさせていただきます。十分な御意見を伺う時間が取れなかったかもしれませんが、後日、事務局から様式等を配布し、御回答いただければと思います。御協力、ありがとうございました。